2025 年度　学校法人 三幸学園　辻学園栄養専門学校
自己評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長　上田　有輝

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来「技能と心の調和」を教育理念に掲げ、教育活動を展開している。本学園が目指す「有益な職業人」とは、「専門的知識・技術を兼ね備えるとともに、社会の変遷に柔軟に対応すべく日々研鑽を積み、職業人としての使命感を確立した人物」と定義し、豊かな人間性を育む教育を重視している。

理念の共有と周知

（1）**教職員に対して**： 教職員手帳への明記に加え、「全体会議」や全国規模の研修会（ビジョンミーティング、サマーセミナー）を通じて理事長訓示を直接共有し、理念の深化を図っている。

（2）**学生に対して**： 入学式やスタートアッププログラムでの講話に加え、独自カリキュラム「未来デザインプログラム」や専用アプリ「夢のスケッチブック」を活用し、日常的な意識付けを行っている。

（3）**学外に対して**： 受験生、高等学校、保護者等に対し、パンフレットへの明記やオープンキャンパス、高校訪問等を通じて広く発信し、学内外への周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 2025 年度重点施策振り返り

2025 度は「率先垂範」「凡事徹底」を運営の基軸に据え、教職員一丸となって学校運営の強化に取り組んだ。三幸学園グループ内においても、本校教員の熱意は高く評価されている。 その一方で、一部で学生への対応や言動に関する指摘を受けるなど、課題も露呈した。コンプライアンス研修については、新入職員への教育のみならず、全教員が自らの姿勢を再点検する機会として、今後も継続的に実施する。

近年の栄養士業界は深刻な人手不足であり、栄養士養成施設には「業界の魅力を伝え、有為な人材を輩出する」という重要な役割が期待されている。 昨年度の評価委員会では、コミュニケーション能力や自発性に課題を抱える学生への対応について指摘をいただいた。現場が求める人材像は「好感の持てる人柄」や「社会人としてのマナー」といった対人スキルが最優先される傾向にあり、学生の資質との乖離が生じている。このギャップを埋め、学生の成長を促すことこそが、本校の理念である「技能と心の調和」および「あきらめない教育」の本質である。AI やデジタルの ICT 活用による個別最適化された学習支援を推進しつつ、いかにして人間力（社会人基礎力）を向上させるべきか。本委員会では、未来の社会人を育成する場として、本校が担うべき役割や進むべき方向性について、各委員より忌憚のない提言をいただきたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

三幸学園の理念・学校目標・育成人材像については、毎年 4 月に実施する「スタートアッププログラム」を通じて周知を図っているが、全学生への深い浸透には至っていない。 また、2025 年度の保護者会は前年度同様にオンデマンド形式で実施したが、視聴者数が低迷している。保護者に対し、学園の教育理念を十分に共有できているかを確認しづらい点が喫緊の課題である。

② 今後の改善方策

ホームルームや日常の指導に加え、「未来デザインプログラム（授業）」において、働くうえで必要な能力を理解し、行動へ移せるよう継続的な指導を行う。 また、学校全体の取り組みとして、クラス単位で「学びの在り方」を再考するプログラムをホームルームに導入し、集団としての一体的な理念体得を推進する。担任は、入学・進級後の早期面談を通じて学生個々の課題を正確に把握し、学生が自ら課題を克服できるよう伴走型のサポートを強化する。

保護者との連携については、学校生活の状況をタイムリーに共有するツールとして「スクリレ」を継続活用する。学生の将来に向けた家庭との協力体制をより強固なものとし、組織的な学生育成に努める。 辻学園は職業教育機関として、三幸学園が社会および学生に約束している「卒業時の到達地点（ディプロマ・ポリシー）」へ確実に導く役割を果たしていく。

③ 特記事項

本校のビジョンは「食を通じて、日本を明るく元気にする」ことである。目指すべき職業人像を「伝統に培われた技術と心を高め、健康的な食事を通じて社会に貢献できる人材」と定義し、業界から強く求められる「調理のできる栄養士」の輩出に邁進する。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務効率化については、担当する校務内容と適正な勤怠管理（ワークライフバランス）を両立させることが不可欠である。 また、教職員一人ひとりが明確な自己目標を設定し、それを主体的に管理・遂行する「自己管理能力」のさらなる向上が課題となっている。

② 今後の改善方策

教職員が自身の担当外の校務にも関心を持ち、学校全体の運営方針や各業務の必要性を深く理解することで、組織への貢献意識を醸成する。具体的には、校務の相互理解と協業を促進し、「個」の力に頼るのではなく「チーム」として効率的に成果を出す働き方を定着させる。 あわせて、中途採用者を含む全教員が教育現場の多様なニーズに即応できるよう、継続的な研修体制を強化する。

また、取り組みとして、生成 AI やデジタルの先端技術を活用する。事務作業や会議資料作成の効率化を図る一方で、導入にあたっては研修を徹底し、個人情報の保護およびセキュリティ確保に万全を期した運用を行う。

③ 特記事項

校務の透明化と情報の共有化を徹底し、教職員が「働き方の質向上」を実感できる組織風土を構築している。これにより、個人の負担軽減と教育活動のさらなる充実を両立させる組織的な改善を継続する。

（3）教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3

関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

ICT の普及により教育の効率化が進む一方で、学生には自ら考え行動する「主体性」がこれまで以上に求められている。しかし、現状では基礎学力が十分でない学生も見受けられ、特に挨拶や返事といった社会人としての基本動作の習得に課題がある。 また、周囲の人間関係など環境の変化に過敏な学生が多く、学年進行に伴うクラス替え等の環境変化においても、円滑な対人関係を再構築できるよう支援を継続する必要がある。

② 今後の改善方策

授業で使用する各種アプリケーションの習得については、適宜指導を徹底する。社会人基礎力の向上に向けては、ビジネスマナー等の授業に加え、日常的な教員との関わりを通じて社会性を養う。 また、基礎学力の底上げを目的として、2025 年度は卒業生を講師に招いた「学び教室」を開催し、学習習慣の定着と学力の向上を図る。 さらに、AI やデジタルの ICT ツールを単なる効率化の道具としてだけでなく、学生の思考力や創造性を引き出す手段として活用し、次世代に必要な能力の育成に努める。

③ 特記事項

昨年度に引き続き、イオンリテール株式会社および大起水産株式会社との産学連携による商品開発を継続した。弁当、惣菜、寿司など多岐にわたる開発プロセスに参画することで、消費者ニーズの掘り起こしや市場分析を実践的に学ぶ貴重な機会となった。これらの活動は、職業教育としての教育的効果を著しく高めるものとなった。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

個々の学生に対するきめ細やかな対応が強く求められた年度であった。特に対人関係の構築に困難を抱える学生が多く見受けられたため、「ペア担任制」を導入し、多角的な視点から学生状況を把握することで、休退学の未然防止に注力した。 進路面においては、卒業後の具体的な職業イメージを描けず、安易な就労形態を希望する学生が一部で見られる。教員側には、学生が自身の将来設計を主体的に考えられるよう導く、より高度なキャリア指導力の向上が求められている。

② 今後の改善方策

退学率の低減に向け、多様な教員が学生と接点を持つことで、学校生活の充実感を提供するとともに、将来の職業に対する意欲を喚起していく。 また、入学直後の 5 月初旬には課外研修を実施し、新入生の職業に対する意識向上を図った。特に業界内就職率の向上を目指し、専門職としての魅力や社会的意義を多面的に発信することに注力する。

教員研修においても、最新の業界動向やキャリア形成に関する知識を深め、学生の将来に寄り添った指導体制を強化する。

③ 特記事項

2025 年度退学率　2.8%　※2024 年度　5.2%

2025 年度就職率　99.2%　※2024 年度　99.3%

＊就職希望者としての数値

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

進路・就職希望調査を早期に実施することで、個々の学生の志向に合致した迅速な支援体制を構築している。 また、メンタルケアの充実を図るため「コミュニケーションサポートルーム」に加え、新たに「フリースペース」を設置・開放し、学生の心理的安定を促す環境を整えた。保護者との連携についても、担任を通じて継続的に実施し、家庭との情報共有に努めている。

② 今後の改善方策

多様な背景を持つ学生の状況を深く理解するため、学期開始後、早期の個人面談は不可欠である。しかし、限られた時間内での計画的な対応が教員の負担となっている側面もある。今後は担任に限らず複数の教員が関わることで、学生がより相談しやすい多角的なサポート体制を強化する。

高専連携（高校と専門学校の連携）については、姉妹校を起点に着手しているが、今後は他校出身者に対し

ても、必要に応じて前籍校から情報提供を受けるなどの柔軟な連携体制を検討する。
また、卒業生への情報発信は「同窓会 LINE」を中心に展開しているが、運用開始以前の卒業生への周知が不十分である点が大きな課題である。現状、機会あるごとの案内に留まっているため、より広範な拡散を可能にする手法を模索する。

③ 特記事項

同窓会組織の活性化に向け、在学中からの意識付けを徹底する。特に、卒業前に LINE 登録を確実に完了させる仕組みづくりを重点課題とし、卒業後も継続的に学校と繋がりを持てるコミュニティの構築を目指す。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

施設の老朽化に伴い、教育機器の計画的な修繕および更新が急務となっている。主な不具合・劣化箇所は以下の通りである。

・冷蔵庫・冷凍庫機器の老朽化による性能低下および不具合
・2階チャンバー冷蔵庫設備の劣化による機能不全の懸念
・水道設備全般の老朽化による漏水や水圧低下等の問題

これらの経年劣化に起因する不備は、衛生管理や実習の安全性、教育環境の質に影響を及ぼす可能性があるため、計画的な点検および修繕・更新が必要な状況である。

校外実習においては、早期の受け入れ態勢整備を推進する必要がある。引き続き、事前・事後教育に注力し、社会で活躍できる学生の育成を目指していく。

また海外研修旅行は、三幸学園のスケールメリットを活かし、スイーツ分野との合同で実施することができた。これにより、コスト面や運営面での効率化だけでなく、分野を超えた学びの機会を提供することができた点は大きな成果である。一方で、今後は多数の学生をどのように管理し、安全に事故なく引率できる体制を構築するかが重要な課題である。安全管理体制の強化と情報共有の仕組みづくりが課題となる。特に、大人数を対象とした引率においては、事前準備とリスク管理の精度を高めることが求められる。

② 今後の改善方策

教育機器については、最新の業界水準に合わせ、必要に応じて順次更新・新規導入を継続する。
各種研修については、実施前に目的の明確化や留意事項の共有を行う「事前勉強会」を徹底する。
単なる手続きの説明に留まらず、学びの質を高めるための事前準備を適切に行う体制を構築していく。

③ 特記事項

AI やデジタルを活用した最新の教育手法の導入も検討し、施設・設備のハード面と、指導内容のソフト面の両輪で教育の質向上を図る。安全で衛生的な教育環境を維持しつつ、学生が最新の技術に触れられる環境整備を組織的に進めていく。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集において、職業や本校の魅力を早期にイメージさせ、本学での「学びの楽しさ」を伝える活動を展開している。 その一方で、栄養士資格の取得に向けたカリキュラムだけでなく、年間行事や学外活動の多さ、それに伴う集団生活での学びの意義を事前に十分伝える必要がある。これらが学生の主体的な姿勢へと繋がるよう、全教員が共通認識を持って受験生に発信し、理解を深めてもらうことが課題である。

② 今後の改善方策

募集活動の段階で、職業の魅力や年間行事を通じた具体的な学校生活の過ごし方を明示する。特に、集団行動や対人関係に不安を抱える学生に対しては、事前に個別のアドバイスや本校が実施しているサポート体制を説明し、入学後のミスマッチやギャップの解消に努める。

留学生を対象とした進学ガイダンスや説明会への参画を強化するとともに、留学生対応を担う教員の増員を図り、支援体制の充実を行う。

また、通信制高校を対象とした訪問活動や説明会の実施を通じて関係構築を強化し、学生の特性に応じた情報提供および個別相談体制の拡充を図る。

③ 特記事項

事前に基礎学力テストを実施している。本校としても個々の習得度を早期に把握し、入学後のスムーズな学習支援（学び教室等）への連動を図っている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令の遵守と適正な学校運営の徹底を継続する。特に、学生・保護者の個人情報の取り扱いについては細心の注意を払い、漏洩等の事案により学校運営に支障をきたすことがないよう、学内規定の遵守をより強固に徹底することが課題である。

② 今後の改善方策

引き続き、全教職員に対して学内規定の遵守とコンプライアンス意識の啓発を促す。法改正や規定の改定が行われた際には、全教員が参加する会議において速やかに周知し、組織全体での確実な情報共有と相互チェックが機能する体制を維持・強化する。また、生成 AI をはじめとする各種 ICT ツールの活用拡大に伴い、デジタル領域における個人情報保護の重要性が増している。これらに対応したセキュリティガイドラインの策定や、最新のリスク事例を学ぶ教職員研修を定期的に実施し、運用の安全性を担保する。

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献･地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座･教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

2025 年度、地域貢献や公開講座の積極的に実施できなかった。

② 今後の改善方策

地域貢献として公開講座の実施には至っていない。2026 年度、同窓会においては地域貢献できるイベントに参画する予定である。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

①社会人基礎力および基礎学力の向上

一般的な社会規範である「挨拶」や「返事」の基本動作が定着していない学生の増加、および基礎的な学力不足が顕著な課題として浮き彫りとなった。 これらは社会へ羽ばたく上での根幹となる要素である。今後は「社会で活躍できる人財の育成」を最大の主眼に置き、日々の生活指導と学習支援（「学び教室」等の活用）の両面から、組織的かつ継続的な指導を徹底していく。

②教育水準の維持向上と現場ニーズへの即応

専門学校における教育活動が、実際の業界現場の状況と乖離しないよう、施設･設備の近代化と、最先端の技術水準に即したカリキュラム更新を推進する。 卒業時に学生が不利益を被ることがないよう、業界団体や企業との緊密な情報交換を継続し、教育水準のさらなる向上に鋭意努めていく。

③卒業生との連携強化とコミュニティの活性化

卒業生との繋がりを維持･強化するため、現教職員からの積極的なアプローチを強化する。特に同窓会活動において、卒業後の年数が経過するにつれて参加率が低下する傾向が課題となっている。 まずは「同窓会LINE」の登録促進など、デジタルツールを用いた手軽な接点作りから着手し、卒業後も永続的に学校と繋がれるコミュニティの基盤を再構築する。

④キャリア教育の推進と就業意欲の喚起

業界における仕事の魅力や社会的意義を学生へ深く浸透させる。様々なキャリアや実務経験を持つ多様な教職員が、ホームルームや「未来デザインプログラム」等の機会を捉え、それぞれの視点から実体験に基づいた魅力を都度伝えていく。これにより、学生の働く動機（モチベーション）を高め、主体的な進路選択へと導く。

⑤総括

テクノロジーによる「教育の効率化・個別最適化」を推し進める一方で、本校の教育理念である「技能と心の調和」の精神に基づき、挨拶・マナーといった「人間力」や「社会人基礎力」を育むアナログな対面指導にもこれまで以上に注力し、社会に求められる「調理のできる栄養士」の確実な輩出を目指す。